



熊本地震支援事業 報告書

活動報告期間：平成 28 年 4 月 14 日～平成 29 年 1 月 28 日

特定非営利活動法人 ADRA Japan

目次

1.	【熊本地震概要】	1
2.	【初動対応】	3
3.	【熊本市内の避難所巡回 看護師派遣】	5
4.	【南阿蘇村の被災状況】	8
5.	【南阿蘇村内の『福祉避難所』運営支援 看護師派遣】	12
6.	【南阿蘇村の『避難所』サロンと見守り活動】	16
7.	【南阿蘇村の『仮設住宅集会所・談話室』への備品寄贈支援】	19
8.	【ご支援・ご協力くださった団体の皆様】	23

熊本地震関連ブログ記事一覧

ブログ記事 1. [【熊本地震】被災者の方々への物資配付](#)

ブログ記事 2. [【熊本地震】避難所への看護師チームの派遣](#)

ブログ記事 3. [【熊本地震】南阿蘇村福祉避難所への看護師派遣報告](#)

ブログ記事 4. [【熊本地震】心休まる時間を。ゆあしすカフェの運営](#)

ブログ記事 5. [【熊本地震】避難所でのサロンと見守り活動](#)

ブログ記事 6. [【熊本地震】仮設住宅団地の集会施設『みんなの家』への備品支援](#)

1. 【熊本地震概要】

平成 28 年 4 月 14 日、16 日に熊本県を中心に大規模な地震が発生しました。

平成 28 年 4 月 14 日 21 時 26 分、一連の熊本地震で最初の地震（M6.5）が発生し、熊本県益城町で震度 7 を観測しました。震度 5 弱以上が観測された市町村も熊本県全域に渡りました。また、中部地方の一部から九州地方にかけての広い範囲で震度 1 から震度 5 強を観測しました。

最初の地震から約 28 時間後の 4 月 16 日未明の 1 時 25 分に、本震（M7.3）が発生し、最大震度 7 の地震を再度観測しました。本震発生直後には有明海と八代海の沿岸に津波注意報が発表されましたが、同日 2 時 14 分に解除され、津波は観測されませんでした。

その後も熊本県では同年 10 月 13 日までに震度 1 以上の地震が 4,087 回観測されています。

今回の地震による熊本県の被害状況は以下の通りです。

人的被害

死者	重症	軽傷
110 人	907 人	1,433 人

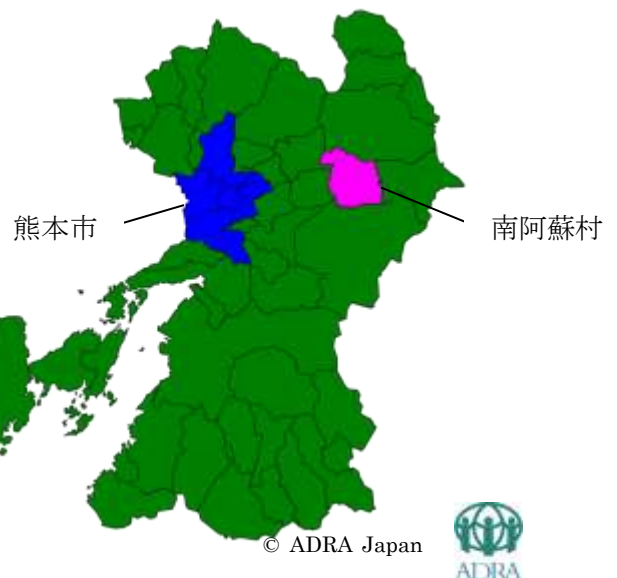
住宅被害

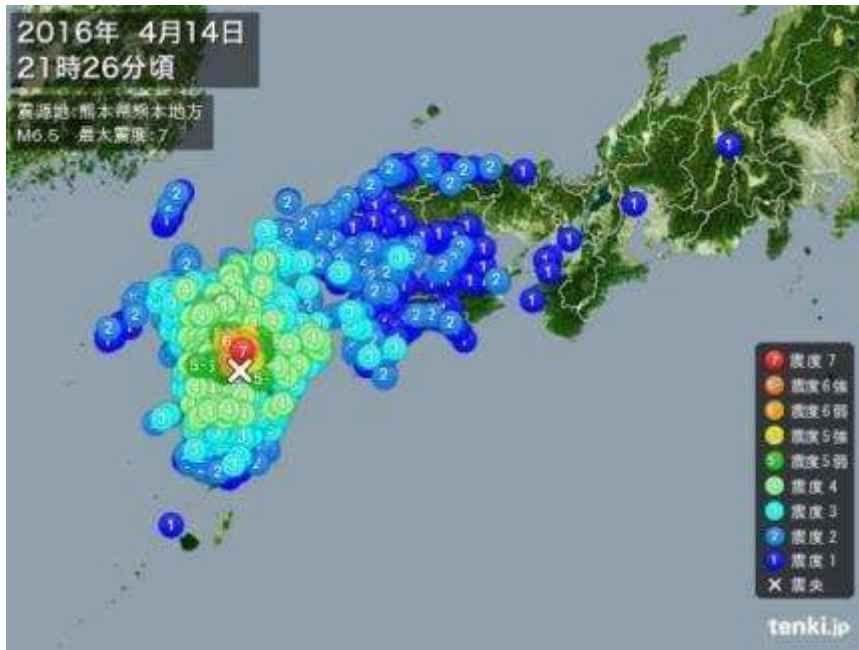
全壊家屋	半壊家屋	一部損壊家屋
8,248 棟	30,749 棟	132,974 棟

(情報引用元：内閣府防災情報 平成 28 年 10 月 14 日時点の発表)

地震発生後の支援として、ADRA Japan は熊本市と南阿蘇村での支援活動に重点的に携わることになりました。

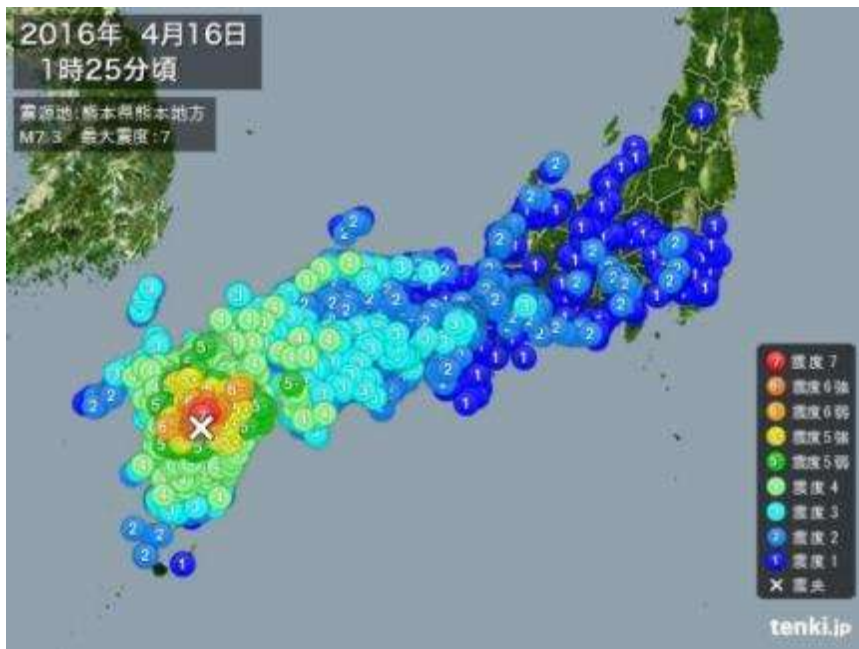
右の図は、熊本市と南阿蘇村の位置を示しています。





【前震】平成 28 年 4 月 14 日 21 時 26 分
 (画像引用元 : 気象庁 HP)

<http://www.tenki.jp/lite/bousai/earthquake/detail-20160414212638.html>



【本震】平成 28 年 4 月 16 日 午前 1 時 25 分
 (画像引用元 : 気象庁 HP)

<http://www.tenki.jp/lite/bousai/earthquake/detail-20160416012510.html>

2. 【初動対応】

2-1. 調査（4月14日～）

4月14日の熊本地震発生直後より ADRA Japan は、平時から関係づくりを進めているネットワーク（震災がつなぐ全国ネットワーク、全国災害支援ボランティア支援団体ネットワーク、ジャパン・プラットフォームなど）及び協力関係にあるセブンスデー・アドベンチスト（SDA）教団本部と情報共有をしながら支援活動を開始しました。

4月19日にはスタッフが現地入りし、熊本市・益城町・南阿蘇村などの被災地域や避難所に足を運び、被害状況と現状把握に努めました。

2-2. 物資配付（4月20日～約2週間）

4月20日からは、東京から4トントラックで運び入れた生活用水や飲料水、食料（ビタミンやカルウシムなどを素早く補うことのできるジュース、大豆でできたハンバーグやミートボールなど）、生活用品を、熊本市内及び南阿蘇村の在宅避難者を中心とした約100世帯に届けました。

物資配付を始めた当初は断水が続く地域が多く、飲み水だけでなく、トイレで使用するための生活用水も不足していたため、ペットボトル入りの飲料水とは別に、東京で20リットルポリタンクに入れた水道水を、熊本の被災家庭に届けました。

2-3. 現地の皆様の声

4月21日の朝、雨の中、配付場所まで水を取りに来られた女性は、「トイレの水が流せなくて困っていました。テレビで聞いたように、使い終わったトイレトペーパーはゴミ袋に入れたり、便槽の中にストッキングを入れて汚物を溜めたりしていましたが、それでも水は必要で、水をいただけてとても助かります」と話しておられました。

また、大豆のハンバーグを受け取った高齢者の方からは、「被災してから、毎日カップ麺ばかり食べていました。さすがに、毎日カップ麺ばかり食べていると辛く、ハンバーグのようなおかずになるものをいただけてとても嬉しいです」という声が聞かれました。

2-4. 活動写真



東京から熊本市内の拠点に搬入した物資



支援物資を受け取る近隣の在宅避難者

*詳細は、こちらのブログ記事をご参照ください。

[【熊本地震】被災者の方々への物資配付](#)

3. 【熊本市内の避難所巡回 看護師派遣】

3-1. 医療チームとの避難所巡回（4月23日～4月25日）

避難所などでの調査及び行政、他の支援団体と協議を重ねる中で、避難所で暮らす方々の健康管理が大きな課題であることが分かりました。そこで、4月23日からの3日間は、ADRA Japan と協力関係にある神戸アドベンチスト病院の医師と看護師で構成された医療チームと共に要請のあった避難所を巡回し、健康相談などを行ないました。

3-2. 看護師チーム派遣による避難所巡回（4月27日～5月8日）

熊本市からの要請を受けて、同市中央区帯山地域にある地域包括支援センターに協力する運びとなり、4月27日から5月8日までの毎日、熊本市中央区の4つの避難所に看護師チーム（計12人・薬剤師・保健師含む）を派遣しました。

ADRA Japan は1995年から毎年ネパールへの医療チーム派遣事業を行なっています。同事業にボランティアとして参加したことのある看護師の方々が急な要請に応じてくださり、看護師チーム派遣を行なうことができました。

3～5人からなる看護師チームが熊本市内4カ所の避難所を毎日巡回し、健康調査や健康相談などを行ないました。また、巡回訪問の結果を地域包括支援センターと毎日情報共有することで、避難者の健康状況などの課題を関連機関につなぐことができました。

看護師チーム派遣を始めた頃は、4つの避難所に合計約540人が避難しておられましたが、派遣を終える5月8日には約30人にまで減りました。派遣を始めてから約2週間のうちに多くの避難者が自宅に戻られたり、新しい住居や別の避難所へ移られたりしていました。派遣期間終了後は、避難者サポートの業務を地域包括支援センターに引き継ぎました。

3-3. 現地の方々の声

避難所におられた高齢者の方からは、「毎日様子を見に来てくれたので、安心していろいろと不安に思っていることを話すことができた」という声が聞かれました。

避難所の運営を担っていた町内会の方は、「いろいろな医療チームが来てくれたが、（来てくれるのは）大抵1回きりで、健康に問題があってもその後のケアにつながらなかったり、他のチームが来た時に同じことを繰り返し説明したりしなくてはならなかった。ADRAの看

看護師チームは毎日来てくれて、避難者一人ひとりの記録をチーム内できちんと共有してくれていたのが信頼できた」と話してくださいました。

地域包括支援センターの担当者の方からは、「毎日看護師チームが避難所を回って、被災者の方々の健康状態やそれぞれが抱える課題などを聞き取って共有してくれたので、包括支援センターとして支援を特に必要としている方々に、それぞれの状況にあった支援を行なうことができとても助かった」

「ADRA の看護師チームから引き継いだ情報を活かして、避難所閉鎖後に自宅に戻られた方々への調査やケアを迅速に行なうことができた」とのお言葉をいただきました。

3-4. 活動写真



避難所を巡回する看護師



避難所巡回後の地域包括支援センターとの情報共有

*詳細は、こちらのブログ記事をご参照ください。

[【熊本地震】避難所への看護師チームの派遣](#)

4. 【南阿蘇村の被災状況】

南阿蘇（みなみあそ）村は熊本県北東部、阿蘇山・阿蘇カルデラの南部に位置し、平成 27 年に阿蘇郡長陽村・白水村・久木野村が合併して発足した人口 11,619 人（平成 28 年 3 月 31 日時点）の村です。

この度の地震による南阿蘇村の被害状況は以下の通りです。

人的被害

死者	重症	軽傷
17 人	14 人	53 人

住宅被害

住宅被害認定家屋	一部損壊家屋
2,300 棟以上	1,170 棟

（情報引用元：南阿蘇村役場 平成 28 年 7 月 25 日時点の発表）

南阿蘇村では主な交通網が被災し、使えなくなってしまったことで、震災後観光客が激減しています。交通の便が大変悪くなってしまったことから、ボランティアの数も他地域に比べると多くはありませんでした。

※ 被災した南阿蘇村の主要交通網

1. 南阿蘇鉄道の運休

観光名所であり住民の足でもある南阿蘇鉄道（トロッコ列車）の中松駅－立野駅間は、鉄橋や区間内のトンネルに甚大な被害があり、現在も復旧の見通しが立っていません。

2. 国道 57 号 阿蘇大橋の崩落

村外から南阿蘇村に入る主道路の国道 57 号線は、阿蘇大橋の崩落及び土砂災害で通行止めとなっています。復旧見込みはなく、国は迂回路を建設すると同時に大橋を別の場所で再建する方向であり、この工事には数年かかる見込みです。

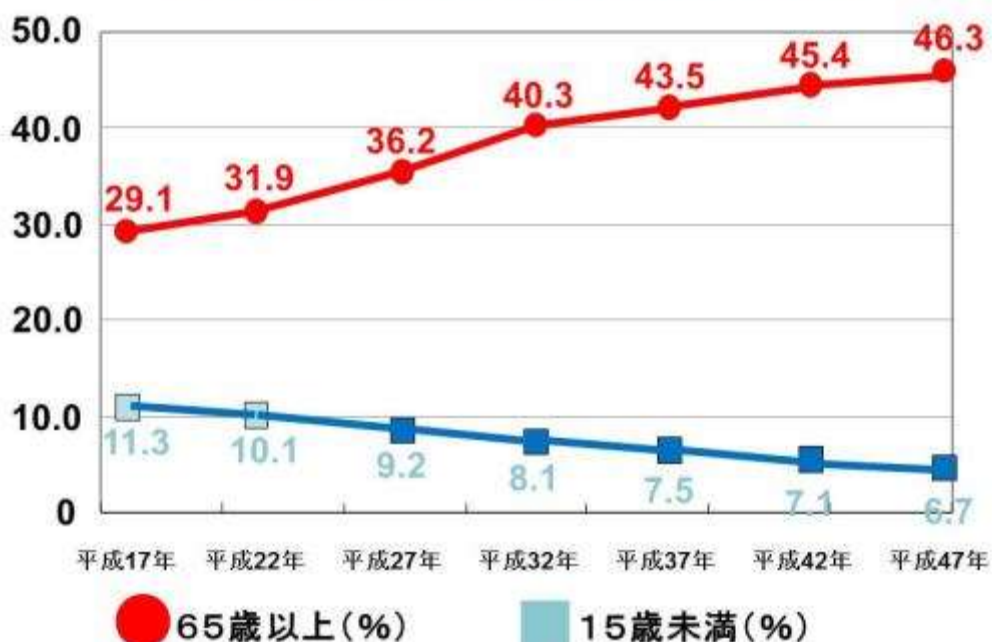
3. 県道 28 号 俵山トンネルの通行止め

もうひとつの主道路である県道 28 号（熊本－高森線）も、俵山トンネルの内部崩落及び土砂災害のため通行止めとなっていますが、本年内を目途にトンネルを復旧し、一部旧道をつなげて再開する予定です。

南阿蘇村の65歳以上の人口は4,043人で、村の全体人口の34.5%に達し、全国平均よりも高い値となっています。また、南阿蘇村は高齢化率の高さに加えて、小児科医がいないという医療面での課題を抱える村でもあります。

さらに、地震の影響で村唯一の救急病院も廃院するなど医療サービスの状態も悪化の一途をたどっています。最も近い救急病院に行くためでさえカーブの多い険しい山道を1時間走らなければならないため、震災後はドクターヘリへの要請が増えていました。

今後の南阿蘇村の高齢化率



(画像情報提供：南阿蘇村社会福祉協議会)



阿蘇大橋付近で発生した立野地区の大規模な土砂崩れ



崩落した国道 57 号の阿蘇大橋



被災により封鎖された県道 28 号線の俵山トンネル



発災直後の住宅被害

(写真提供：南阿蘇村社会福祉協議会)

5. 【南阿蘇村内の福祉避難所運営支援 看護師派遣】

5-1. 南阿蘇村内の福祉避難所運営支援の経緯

今回の地震で南阿蘇村内の多くの福祉事業所の職員の方々が被災されました。さらに震災後は、通常業務に加えて福祉避難所運営の業務が加わったり、地域の交通網の不通によって通勤が困難になったりするなど、職員の方々にかかる負担がとて大きくなくなっていました。

このような状況を受けて、南阿蘇村では、地域の福祉事業所に支援団体が加わる形で、「みなみ阿蘇福祉救援ボランティアネットワーク（MFN）」が設立されました。ADRA Japan は、このネットワークに参加し、南阿蘇村内の福祉避難所に看護師を派遣するなど、同避難所が閉鎖する6月30日まで利用者の健康管理や生活サポートなどを行ないました。

5-2. 南阿蘇村内の福祉避難所運営支援 看護師派遣（5月13日～6月30日）

南阿蘇村内の福祉避難所「くぎの」に医療コーディネーターと看護師を派遣し、要介護度1～2の利用者6人の生活サポート及び運営支援を行ないました。震災後村内の医療事情が悪化していたため、福祉避難所の夜勤スタッフとして看護師を配置し、利用者の方々の状況把握に努め、緊急の必要が生じた場合には早めに病院に搬送できるようにしました。常駐の医療コーディネーターによる管理の下、計26人の看護師・保健師・薬剤師を同避難所に派遣しました。

同避難所の開所から閉鎖までの期間、避難者の転倒事故なども起きず、全員が元気に退去されました。それまでの避難生活で疲弊していた避難者の方々に笑顔が見られるようになりました。

5-3. 福祉避難所運営支援の体制について

福祉避難所は、介護の必要な高齢者など、一般の避難所での生活が困難な方のための避難所です。そのため、24時間体制で利用者の方々を見守る必要があります。既存の福祉施設内などに開設されることが多いですが、ADRA Japan が支援を行なった「くぎの」に関しては単独で開設されたため、人員不足などが問題になっていました。現在の国の制度では、福祉避難所は利用者10人あたり1人スタッフを配置することになっています。しかし、既存の施設に併設されるのではなく単独で開設される場合、1人のスタッフで利用者の方全員を24時間態勢で見守ることはできません。

そこで、今回の運営支援において ADRA Japan は、夜勤看護師 2 人と医療コーディネーター 1 人を常に派遣できる態勢を維持しました（日中は MFN から介護士もしくは看護師 2 人が交代で派遣されていました）。医療コーディネーターは、全国から駆け付け入れ替わりで支援して下さる看護師同士の情報共有をサポートし、また利用者の健康管理を中心に日常生活援助などを行ないました。

利用者の方々は、現地で働くヘルパーの方の業務再開に伴ってご自宅に戻られたり、福祉施設に入られたり、お子さん方の住む家に引っ越されたりと、徐々に避難所を出て行かれ、福祉避難所「くぎの」は 6 月 30 日に閉鎖されました。

5-4. 現地の皆様の声

後日、福祉避難所を利用しておられた高齢者のご夫婦とお会いした際には、「あそこ（福祉避難所）は本当に良かった。みんながいて楽しかった」と話しておられました。

福祉避難所運営元の福祉施設の責任者の方からは、「ADRA Japan は、常駐のコーディネーターを中心に組織として支援してくれたので安心して任せることができた。福祉避難所滞在中は利用者の笑顔が増えたとし、転倒事故なども起きなかったことに感謝している。また、グリーフケアもしっかりやっていただいたことに感謝している」との言葉をいただきました。

5-6. 活動写真



福祉避難所内での食事



福祉避難所での日課、体力低下を防ぐラジオ体操

*詳細は、[こちらのブログ記事をご参照ください。](#)

[【熊本地震】南阿蘇村福祉避難所への看護師派遣報告](#)

5-7. 【南阿蘇村福祉避難所移動カフェ】（福祉避難所開設期間中）

福祉避難所の開設期間中、利用者の方々を対象に移動カフェを行ないました。

避難生活が長引くにつれ、避難生活を続けている方にも、ケアをする方々にも心身の疲労が蓄積していることが課題となっていました。そこで、避難生活を続けている方々や、地震発生後ほとんど休みなく働き続けている福祉施設スタッフの方々やそのお子さん方などを対象に、ホッとできる時間を過ごしていただけるようにADRA 災害対応バス「ゆあしす号」を利用した「ゆあしすカフェ」を行ないました。

また、カフェを開催した駐車場まで自力で来られない方々には、ポットにコーヒーや紅茶などを入れてお届けしました。

ゆあしすカフェには、高齢者福祉施設の利用者の方々、スタッフの方々、各地から支援に来ておられる専門職支援者の方々やそれぞれのお子さん方などが来られました。カフェでは、高齢者の方々だけでなく、休む間もなく親身に高齢者の方々のケアに当たっているスタッフの皆さんがリラックスしている様子を目にすることができました。また、集まった子どもたちが楽しそうに過ごしており、ADRA Japan スタッフも笑顔をもらいました。

5-8. 現地の皆様の声

カフェに来られた方々からは、「リラックスできてよかった」「久しぶりにちゃんとドリッ
プされたコーヒーを飲んだ」などの声が聞かれました。

また、温かい飲み物を飲みながら、今もなお余震に怯えながら生活していることを話され
た方もおられました。しかし同時に、南阿蘇村や熊本県を大切に思っていることも教えて
くださいました。

5-9. 活動写真



ゆあしすカフェを楽しむ福祉施設の職員と利用者の方々



福祉避難所へ飲み物をデリバリー

*詳細は、[こちらのブログ記事](#)をご参照ください。

6. 【南阿蘇村の避難所サロンと見守り活動】

6-1. 二次避難所サロンと見守り活動の経緯

南阿蘇村周辺は観光地でホテルなどの宿泊施設が多いため、複数のホテルや旅館などが二次避難所となりました。2016年7月時点で、二次避難所には約800人の南阿蘇村住民の方々が避難しておられました。

二次避難所は体育館などの一次避難所に比べて、プライベートな空間が保たれるという利点がある一方、自ら能動的に動かなければ誰とも会うことがなく、運動することもままならず、部屋に籠りきりになることが少なくありません。ですので、特に高齢者の方の健康状態の悪化などが懸念材料となっていました。

ADRA Japan は南阿蘇村社会福祉協議会（社協）と話し合いを行ない、両者の協働で、主に二次避難所でのサロンカフェを行なうことを決めました。また、同避難所の状況調査や、避難所退去後の生活の場となる仮設住宅などでの支援活動の準備をサポートするため、7月7日から8月26日までスタッフ1人を派遣しました。

6-2. 二次避難所サロンと見守り活動（7月7日～8月25日）

■二次避難所サロン実施

ADRA Japan スタッフは、社協職員と共に避難所サロンの企画・実施や見守り活動などを行ないました。期間中、9か所の避難所で計16回のサロンを行ない、延べ187人の避難者の方々が参加されました。サロン実施の際は、社協職員との協力の下、避難者の方々からの生活相談なども受け付けられようになりました。

避難所サロン実施概要

実施した避難所数	実施回数	サロン参加避難者数
9カ所	16回	187人

また、避難所内でのサロンスペース確保が難しい場合や希望があった場合には、避難所の駐車場スペースを利用してゆあしすカフェを行ないました。

住民の方々は、長引く避難生活の中で発災直後から抱えていたストレスが体調に現れるなど、積み重なった疲労を感じておられることが見て取れました。サロン活動は、そうした住民の方々に安らぎの場を提供することを目的に行ないました。

■二次避難所での見守り活動

避難所サロン実施と並行して、9カ所の二次避難所内を社協職員と一緒に巡回訪問し、避難者の方々の見守り活動を行いました。避難者の方お一人おひとりへ声掛けをし、それぞれの生活状況の把握を行ない、必要に応じて南阿蘇村社協で対応していただけるよう要請しました。

見守り活動実施概要

見守り訪問を実施した二次避難所数	戸別訪問を実施した二次避難所数
9カ所	6カ所

「話し相手がなくて、さみしい。ずっと部屋に閉じこもっている」と話された高齢者の方には、次回からサロンのある日はお部屋まで声掛けに行き、サロンに参加していただいたり、足が痛くて部屋から出たくないというような場合には、スタッフがお茶を持ってお部屋へお話しをしに伺ったりしました。

こうしたサロン実施と見守り活動は、その後、社協によって実施されている仮設住宅などでの見守り支援活動に活かされています。

6-3. 現地の皆様の声

サロンに参加された方は、「一人で部屋にいると良くない事ばかり考えてしまい、後ろ向きになってしまう。今日は久しぶりに笑った」とお話ししておられました。

また別の方からは、「不安が色々とあるが、役場に出向いて問い合わせるのは気が引ける。サロンで（社協職員に）気軽に質問できてよかった」、「こうやって話ができるとう安心する」という声も聞かれました。

長引く避難生活の中、特に高齢者の方々から「避難所に来てからは（日課だった）畑仕事もできず、体が弱ってきた」、「運動不足になっているので散歩したい」などの声があがりました。そこで、ゆあしす号に乗って皆で散歩に出かけました。参加された方からは、「久しぶりに良い運動になってよかった」、「外へ出てリフレッシュできた」という声が聞かれました。

南阿蘇村社協からは、「避難所でのサロンや見守り活動を通して、住民の方々の状況把握ができていたため、その後の仮設住宅入居後の見守り活動もスムーズに開始できました」、また「サロン活動ではあたたかい支援が広がり、避難所で住民の方々のひとときの笑顔を

見ることができて、とても良かったです」との言葉をいただきました。

6-4. 活動写真



二次避難所サロンを行なった建物（外観等は修復工事中）



二次避難所サロンで避難者の生活相談を受ける社協職員の様子

*詳細は、[こちらのブログ記事](#)をご参照ください。

【熊本地震】 避難所でのサロンと見守り活動

(赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」・九州 助成事業)



7. 【南阿蘇村の仮設住宅集会所・談話室への備品寄贈支援】

7-1. 仮設住宅集会所・談話室備品支援の経緯

熊本県では、「みんなの家」と名付けられた応急仮設住宅団地の木造の集会所（60 m²）と談話室（40 m²）が約 60 棟、整備されています。南阿蘇村では、8 ヶ所の応急仮設住宅団地（南阿蘇村内 5 ヶ所、大津町内 3 ヶ所）が建設され、約 1,000 人が入居し、「みんなの家」を集会所として活用しておられます。

熊本地震発生後、熊本県・熊本県社会福祉協議会などと定期的に情報共有を行なう中で、支援団体のネットワーク会議体である「くまもと災害ボランティア団体ネットワーク火の国会議」（NPO くまもと及び全国災害ボランティア支援団体ネットワークによる協働運営）からの要請を受け、ADRA Japan は、南阿蘇村での備品支援を行なうこととなりました。

熊本県庁や南阿蘇村役場などと調整をしながら、南阿蘇村商工会の協力を得て調達した備品を、南阿蘇村の全てのみんなの家へ納入しました。これにより、仮設住宅での住民自治及びコミュニティ形成が円滑になされるための環境整備をサポートすることができました。

7-2. 仮設住宅集会所・談話室備品調達と搬入（7月22日～12月26日）

各集会所にすでに備えられていた備品と重ならない形で、AED（自動体外式除細動器）や掃除用具、掛け時計、お茶飲みセット、座布団などの備品を納入しました。

今回の備品調達にご協力いただいた南阿蘇村商工会は、震災直後は約 6 割の会員企業が廃業するかもしれないと言われていましたが、徐々に前向きになってきています。ただ、売上は激減したままで経営が厳しい状況に変わりはないため、同商工会を通じての備品調達が村の経済的復興の一助となればと願っています。

7-3. 現地の皆様の声

南阿蘇村の仮設団地を訪ねると、住民の方々が集会所を活用し、自分たちのものとして認識しておられる様子がよく伝わってきました。住民の方々からは、「皆さんに色々支援してもらって（備品は）揃っているし、無いものは自分たちでも持って来ているので大丈夫。ここにあるもので十分です」、「（提供された）ポットが 2 つあったのが良かったね。1 つだ

ったら足りなかった。みんな来るからね」などの声が聞かれました。

他方、別の仮設団地では、「集会所は定期サロン以外ではあまり使っていないけど、せっかくこういう建物があるんだから、これからはもっと自分たちでも使ったほうがいいね」という声も聞かれました。

また、定期サロンに参加した高齢者の方は、「(集会所備品の) 血圧計は、たまに使うね。(血圧を) 気にしてる人は毎回計ってる」と話しておられました。各仮設住宅団地では、ADRA Japan が設置した AED の使い方を習得するための救命講習等も行われています。

7-4. 活動写真



南阿蘇村仮設団地内にある「みんなの家」



みんなの家の内部



みんなの家で催された餅つき行事



ADRA が設置した AED



ADRA が納入した備品一式

*詳細は、こちらのブログ記事をご参照ください。

[【熊本地震】仮設住宅団地の集会施設『みんなの家』への備品支援](#)

8. 【ご支援・ご協力くださった団体の皆様】

この度の ADRA Japan の熊本地震支援活動へ多大なるご支援・ご協力をお寄せくださった企業・団体をご紹介します。心温まるご支援、誠にありがとうございました。

協 力

- ◆ パルシステム東京
- ◆ ジョンソン・エンド・ジョンソン
社会貢献委員会
- ◆ 三育フーズ株式会社
- ◆ 日産自動車株式会社
- ◆ 株式会社 CAMPFIRE
- ◆ 浄土宗平和協会
- ◆ セブンスデー・アドベンチスト教会



助 成

- ◆ 赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」・九州



(敬称略、順不同)

上記以外にも多くの個人の方々や企業・団体からご支援・ご協力をいただきましたことを感謝申し上げます。

ADRA Japan は、引き続き南阿蘇村での情報共有を行ない、必要に応じた支援を継続していきます。変わらぬご支援をよろしく願いいたします。

以上